

当事者 部会

部会長 成竹 精一 副部会長 川崎 昭仁 長岡 純人 中村 剛
 運営委員会担当者 荒井裕子 綿貫好子 ケアマネ連絡会担当者 川俣伸枝 小山多恵子
 長野市障害福祉課担当者 北島恵子 松田敏彦 松平純子

1、年間テーマ

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
6	21			執行部会	・今年度の当事者部会について
9	14			執行部会	・年間計画 ・第1回の内容について
10	12	長野市障害者 福祉センター	26	障害者の防災対策について	・日頃の準備・避難方法 ・避難後の必要な支援と課題 ・ふくしネットフェスタの展示方法
10	27	長野市役所		ふくしネットフェスタ参加	【展示】 ・障害当事者の災害時の状況 ・2.5D ハザードマップ ・当事者の生活動画
12	14			執行部会	第2回の内容について
1	25	ZOOMにて	23	障害者の権利擁護について	・ふくしネットフェスタ振り返り ・「長野県障がい者共生社会づくり条例(仮称)について」(県より) ・障害者差別解消法の解説
2	15	ZOOMにて	17	今年度のまとめ	・今年度の振り返りと来年度の課題

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

令和3年度 事業報告

4、課題について

(1)主な検討課題

- ・長野市障害者基本計画、障害者差別解消法施行後の動向について
- ・長野県「障がい者共生社会づくり条例」の動向について
- ・障害の理解・啓発、他障害の理解。そのための情報共有(特にほっこり事例)
- ・障害当事者の防災対策
- ・ふくしネットフェスタへの積極的参加と当事者部会の周知と参加呼びかけ
- ・当事者同士の理解と交流をはかるための交流会開催

(2)検討の目的と結果(現状)

- ・本年度は、運営委員会の決定を受けて、「当事者部会のあり方検討会」に前執行部のメンバーが参加するところから始まった。そこでの話し合いで、昨年までの部会よりもバランスよくメンバーを増やし、さらに「けんり部会」の機能もかねて運営できるようにしようという事になった。それを受けて、新しい執行部のメンバーを選出して6月に新執行部会を開催した。
- ・新型コロナウイルス感染対策の影響もあり、本会の開催数も少なくなり、Web会議に変更せざるを得なくなって思うような活動ができなかったことは大変残念だった。
- ・ふくしネットフェスタで、当事者部会の展示を行うこととなり、かなりバタバタと準備をすることになってしまったが、会員の皆さんの協力によりバランスよく効果的に情報発信できるような展示を行うことが出来た。信濃毎日新聞や国土交通省からの問い合わせが来るなど今後につながる反響もあった。
- ・10月の部会に長野市社協を通じて中学生が参加する機会を設けることが出来た。積極的に発言もしてもらい、部会の雰囲気を知っていただくだけでなく、障害当事者の理解を進めるうえでも画期的であった。
- ・オミクロン株の感染状況がひどくなるなか、1月の当事者部会はWeb会議となった。Web会議に参加が難しい環境の会員のために会場を準備するなど準備が大変であったが、事務局がその環境を整備してくださり、無事開催できたことはありがたかった。しかし、資料提供の方法は検討が必要だと感じた。
- ・1月の当事者部会は、「権利擁護について」をテーマにして、長野県障がい者支援課・権利擁護センターからお話を伺った。そのなかで、障がい当事者の権利を守るためには差別解消法や各県の条例を整備していく事が大事であると再認識することができた。
- ・福祉関係に従事している職員が、差別解消法を認識していない。理解していないような対応をしていたり、権利擁護センターの相談件数が増えていないなど、理解を促すような研修の必要や、法律の存在自体を広めていかななくてはならない必要性をいまだに感じる。
- ・本年度も新型コロナウイルス感染対策の影響で交流会の開催が出来ず当事者同士の理解と交流をはかることができなかったことが大変残念であった。

当事者部会

令和3年度 事業報告

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・長野県「障がい者共生社会づくり条例」がようやく来年度に制定されそうな状況になってきた。その内容もかなりはつきりと示されてきたが、実際に制定され施行されるまで、注視していきたい。
- ・ヘルプマークの認知度はあがっているが、正しく理解している人が少ないように感じる。正確な認識を持っていただくようにしたい。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で仕方がないことではあったが、「障害当事者同士の理解と交流をはかる」という課題に全く取り組むことが出来なかった。部会のテーマを情報交換(知られていないサービスや便利グッズを紹介するなど)のみにしぼって開催するなどの工夫をして、来年度は取り組めていければと思う。

(4)部会の運営体制について

- ・新しい運営体制にして、1年間進めてみたが、そのなかでも、昨年度より障がいの偏りが少なくなり、様々な立場の当事者の考えが上がってくるようになり始めたように感じる。しかし、1年間をとおして活動できたとはいいいがたい状況で終わってしまったため、十分にこの新体制でよかったかどうかの検証ができていない。来年度も同じ体制で活動してみる必要性を感じる。

5、総括(1年間を振り返って)

- ・限られた部会の開催であったが、「障害当事者の防災対策」と「権利擁護について」という2大テーマに関して取り組めたことは非常に良かったと思う。
- ・「障がい当事者の防災対策」に関しては、ふくしネットフェスタでの展示をつうじて部会での検討内容も紹介でき、市民の方々に当事者部会の存在もアピールできたのではないかと感じる。来年度以降もふくしネットフェスタ等の行事に積極的にかかわり、少しでも存在感を発揮していければと思う。
- ・「権利擁護」に関して、基幹相談支援センターに障がい当事者の相談員を置くなど、障がい当事者のピアサポートによる問題解決をしていく仕組みができることが理想であり、また期待されていることではないか。それを担って活躍していくことが出来る当事者を発掘し増やしていく事も部会の役割として重要であると感じる。

こども 部会

部会長 府川裕一 副部会長 丸山志野 執行委員 塩手奈緒子
 執行委員 藤田圭子 執行委員 宮澤俊樹 執行委員 金井隆純
 執行委員 伊藤史佳 療育 C 熊谷恵子 療育 C 安川健治
 運営委員会担当者 岸田隆 ケアマネ連絡会担当者 樺沢直子・本藤雅奈美
 長野市障害福祉課担当者 山本知子

1、年間テーマ

各関係機関との連携の在り方

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
7	9	感染防止のため中止		放課後等デイサービス事業所連絡会	各機関との連携についての意見交換目的。 中止になったためアンケートにて実施。
9	28	Web 会議	42	学齢期支援連携会議	学校・行政・相談支援・放デイ事業所それぞれの 立場から「支援会議」の在り方について討論を 行い、参加者間での意見交換を実施。
11	5	Web 会議	29	児童発達支援事業所連絡会	各機関との連携についての意見交換目的。 ZOOMにてグループディスカッション実施。
1	13	Web 会議	76	乳幼児期支援連携会議	保育園、幼稚園、保育所等訪問、児発事業所から 支援についての発表をしていただき、 今後の連携につながる会議を実施。

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

・情報ツウーの発行

令和3年度 事業報告

4、課題について

(1)主な検討課題

- ・支援会議の在り方、必要性。
- ・乳幼児期の児童に必要な支援と取り組み。

(2)検討の目的と結果(現状)

- ・放デイ事業所の課題の一つとして学校や関係者との情報共有の難しさが挙がっていた。連携会議では各関係者が集って情報共有や支援の方向性を確認する「支援会議」の在り方について、各立場から支援会議の必要性や意義についての討論を行っていただき、支援会議の在り方を改めて認識することができた。
- ・乳幼児期では保育園や幼稚園などの現場で働く先生方に連携会議へ参加していただき、現場の現状や具体的な支援方法、実際の取り組み、福祉(保育所等訪問や児童発達支援事業所)との連携について意見交換をする場を設けることができた。Web での会議を実施したことで、中々会議に参加することができない現場の先生同士が顔を合らし現状を話し合うことですぐに取り入れられる支援内容や今後相談するためのつながりなどを形成する役割を担えたように感じる。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・支援会議の在り方について
- ・地域の学校との連携会議
- ・事業所の抱える課題の抽出

(4)部会の運営体制について

学齢期・乳幼児期共に「事業所連絡会→関係者との連携会議」という基盤を作り上げることができ、参加された方々からも継続して実施してほしいとの声をいただいている。この流れを継続していくためにも現在の体制は不可欠なものと感じており、来年度も可能な限り執行部の方々には継続をお願いしたい。

5、総括(1年間を振り返って)

執行部・また部会全体として連携に対し前向きに取り組む意識が強くなったように感じます。まだまだコロナ禍の影響もありますが、状況に応じて臨機応変に対応し、児童の支援に関わる全ての方々に役立てるよう来年度も努めていきたいです。

しごと 部会

部会長 坂口 智教 副部会長 小林 弘明

運営委員会担当者 綿貫 好子

ケアマネ連絡会担当者 板倉 重彦 川俣 伸枝 (田中 みどり)

長野市障害福祉課担当者 前島 佑季子

1、 年間テーマ

テーマ「はたらく」

サブテーマ「障害者雇用率のアップ」「支援員のスキルアップ」「就労アセスメントの質の向上」

2、 部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
6	22	ふれあい福祉センター 5階ホール	30人	コロナ禍で見えてきた市場の課題 しごと部会としての活動方法	企業懇談会グループ ・雇用フェアラムと合同開催についての検討 スキルアップグループ ・学習会実施に向けての課題と開催方法 工賃アップ及び支援員定着グループ ・イベント開催のない中での販売方法
9	22	長野市芸術館リサイタルホール	長野電子システム 申込者 長野県内 72人 北信 32人 東信 16人 中信 15人 南信 9人 他 26名	「働く」から考える共生社会みんなが主役 みんなでつくる 「共に働く ～すべての職場に障がい者雇用を～	・障がい者雇用優良事業所等表彰 ・取組み事例の紹介 ・パネルディスカッション

令和3年度 事業報告

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

- ・第五回 企業懇談会を障がい者雇用優良事業所等表彰と合同で行った。

4、課題について

(1)主な検討課題

- ・大規模災害時の支援体制の連携
- ・企業と障害者を結びつける方法

(2)検討の目的と結果(現状)

- ・コロナ禍においての支援体制をどのようにしていくか？
- ・利用者及び職員の安全面を確保しながらの支援
→検討中
- ・企業側に障害者が働けることを知ってもらう
- ・第5回企業懇談を ZOOM を活用して行い全県で約 30 社の新規企業に参加していただいた。令和4年度はフルスペック開催にて検討。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・大規模災害時の支援体制の連携
- ・企業と障害者を結びつける方法

(4)部会の運営体制について

- ・集団で集まるという事ができず、定期的集まる機会が取りづらくやりづらい場面があった。
- ・執行部会員の入れ替わりが少なく、次世代につなぐりにくい。

5、総括(1年間を振り返って)

- ・しごと部会は、イベントを通じての広く一般に周知する方法が多いためコロナ禍の中非常に苦戦しました。ZOOM を利用し会議を企画しましたが

令和3年度 事業報告

ZOOM 環境などの施設対応も異なり参加人数も減り、慣れない環境の中議論も進まない状態でした。そんな中でも、企業懇談会も実施することができ、福祉ネットフェスタでは庁舎の外にて 10 施設の販売もでき久しぶりの賑わいを感じました。

かつどう 部会

部会長 大野 高宏(はなみずき) 副部会長 小室 和平(長野コロニー)
小林 真由美(廣望会) 大西 朋美(絆の会) 三井 絵美子(森と木)
 ケアマネ連絡会 川俣伸枝(南部障害者相談支援センター) 青木麻都香(北部障害者相談支援センター)
 長野市障害福祉課 小林 昭雄 運営委員会 岸田 隆(森と木)

1、年間テーマ

生活介護事業所連絡会、地域活動支援センター連絡会にて共通の課題を共有し、情報交換を通し相互関係を築く。

地域活動支援センター連絡会においては、あり方と意義を深める機会とする。

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
10	21	長野市役所第二庁舎		生活介護事業所連絡会	事業所紹介、グループワーク
2	10	Zoom	31	学習会	「ひきこもり支援について」 講師：傳田裕美氏(長野県精神保健福祉センター) ・ひきこもり支援事業について ・ひきこもりの理解について
2	10	Zoom	23	地域活動支援センター連絡会	・事前アンケートから各事業所の課題、情報共有 ・地活リーフレットについて 確認

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

- ・地域活動支援センターリーフレットの内容修正と再版
- ・地活連絡会でしようする、地域活動支援センターの状況と運営課題に関するアンケート

4、課題について

(1)主な検討課題

【生活介護事業所】

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年に引き続き、連絡会は年 1 回のみの開催になった。ここ数年参加事業所の顔ぶれが変わらないという課題があったので、執行部外の事業所(八雲日和さん)に連絡会の開催に

令和3年度 事業報告

ご協力いただいた。2 事業所より事業所紹介。事前にアンケートをとり、似通った課題を持つ事業所ごとにグループ分けを行い、グループワークにて課題や活動や作業の工夫について、情報交換を行った。

連絡会が年 1 回のみになってしまったので、各事業所にアンケートへの協力もしていただいた。

【地域活動支援センター】

地活連絡会も年 2 回計画していたが、コロナの為 zoom にて 1 回のみ開催となった。開催前アンケートを実施。利用者・各事業所の状況などを把握するため、地域活動支援センター利用の目的、利用状況、相談を目的とした利用者についてはどのような相談が多いかなどを集計し、参加者の間で情報共有を行った。それぞれの事業所が抱える課題や今後の地域活動支援センターの活動内容などについても情報交換を行った。

【学習会】

テーマ「ひきこもり支援について」

福祉事業所のスタッフを対象に、ひきこもりの方の支援の基本について、県や国の動向を交えて講義いただく。講師には長野県精神保健福祉センターの傳田裕美氏をお招きし、ZOOM にて開催した。ひきこもりの方について相談を受ける機会が多い、地域活動支援センターや相談支援事業所の職員に多く参加頂いた。

(2)検討の目的と結果(現状)

【生活介護事業所】

生活介護連絡会およびアンケートでは以下のような課題があげられた。

(高齢化)

介護保険に切り替わるメンバーが増えているが、このまま生活介護を使っていいのか？

⇒65 歳を超えても、慣れた事業所の利用を継続できるように支援している。職員に介護技術がないことを介護保険への切り替えを検討するタイミングのひとつと捉えている。

(コロナ)

販売場所、発表の場所がなくなった。⇒セルフセンター、商品の委託販売はどうか。

下請け作業がなくなり、工賃を出すことができない。

レクリエーションなど余暇活動ができないなど、活動の幅が狭められている。

利用を控える方がいて、収入減少している。

(保護者の高齢化)

重度障害の方のためのグループホーム開所や施設入所の要望が多く出ているが、いずれも実現が難しい。

入浴の要望も多くなってきている。

(人員不足)

・人員不足のため同性介助が難しい場面がある。

・職員の募集をしても求めている人数の応募が集まらない。

(職員のスキルについて)

専門的な知識を持って入職する職員がいない。勉強会や助言を受けられる機会がほしい。

・強度行動障害の方の支援、活動について悩んでいる。受託作業を行う利用者様と、行動障がいのある利用者

令和3年度 事業報告

様双方の受け入れをおこなっている事業所があれば、どのような工夫や環境にして支援をしているか知りたい。

(受け入れについて)

強度行動障害の方の利用希望の方が来ても、職員体制・環境やスキルが伴わずお断りせざるを得ない。そのため受け入れ可能な事業所が少なくなっている。医療的ケアの方も同様の問題がある。

通所時間外の利用希望が増えている。またタイムケア、行動援護、移動支援をできる事業所も少ない。

(送迎)

利用希望の方が増えているが、乗車定員などから受け入れできないことが増えている(特に車いすの方)。

(その他)

重度化、要医療化していることから、医療機関との連携について課題を感じている。

コロナの陽性者が確認された時、保護者や関係事業所、併用施設などに早急に情報を伝える方法がない。

【地域活動支援センター】

年 2 回予定していた地域活動支援センター連絡会はコロナ禍にあり昨年同様年 1 回のみ開催となった。限られた時間の中で内容を深めた話し合いは行えなかったがそれぞれの事業所が抱える課題、他の事業所に聞いてみたいことなど現在の課題を抽出することができた。

・活動内容の充実

コロナ禍にあり従来の活動内容を行うことが難しい状態が続いている。通所できない利用者に対してどのような関わり方法があるか、行事目的の利用者が行事目的以外で通所するためにはどのような工夫を行っていくか、事業所内のアイデア出しに限界を感じることもある。地域活動支援センター連絡会が定期的に開催されると事業所間での情報交換ができる。

・相談業務について

相談件数は増加傾向にある。定期的に話を聞いてもらいたい、つながりのある地域活動支援センターで相談したいという利用者、また当事者本人が関係機関とつながらず家族が利用し相談するケースも増加している。個別支援が必要な人、福祉サービスに抵抗がある人などニーズも多様でトラブルも多い。地域活動支援センターだけでは解決しにくいケースには北部・南部の相談支援センターと連携していくことも必要とされる。

・補助金額に関する問題点

地域活動支援センターは個別給付でない貴重な障害福祉サービス。長野市にも事業の大切さを高めてほしい。補助金額で既定の人員配置を行い、求められる役割を果たしていくことは難しくなっている。今から 30 年前、地域活動支援センターの前身となる小規模通所授産所の頃と補助金が変わらない。補助金のことも含め、長野市の担当者から直接話を聞く場が欲しかった。

・地域活動支援センターリーフレットの発行

昨年度発行できなかった地域活動支援センターのリーフレットを発行することができた

(3)引き続き検討が必要とされる課題

・生活介護事業所、地域活動支援センターの課題抽出やのために年に数回の各連絡会の開催。コロナのため活

令和3年度 事業報告

動も制限され苦慮している事業所も多いので、アイデアや対応を情報交換していく。コロナ渦とは関係なく、ZOOM 開催にした方が参加しやすいという意見もあった。

- ・ふくしネット参加事業所が少ない。事業所連絡会、学習会などの顔ぶれが変わらない。引き続き障害福祉課からふくしネットへの参加を呼び掛けていただきたい。
- ・地域活動支援センターの今後の運営方針など部会内で直接話を聞く機会を作っていただきたい。
- ・地域の課題と考えられること(入所施設の空き、タイムケア、行動援護、移動支援、強度行動障害、医療的ケアの方の受け入れをできる事業所が少ないこと、送迎の希望が増えていることなど)について現状の把握。
- ・スキルアップのための学習会について、どのような要望があるか把握し、実施できるようにする。

(4)部会の運営体制について

かつどう部会執行部役員会(年 5 回開催)

生活介護事業所連絡会(年 1 回)

地域活動支援センター連絡会(年 1 回)

障害理解のための学習会(年 1 回)

5、総括(1 年間を振り返って)

・コロナ渦であり、当初計画していた生活介護事業所連絡会、地域活動支援センター連絡会は各 1 回ずつの開催となってしまったが、開催できたことで互いの現状やコロナ渦でのこまりごとについて話し合うことができた。アンケートによって、連絡会には参加できない事業所の声も聞くことができ、課題を知ることができた。ただし、回答数は多いとは言えなかった。地域課題の把握のためアンケートは有効な手段ではないかと感じたので、より多く回答が得られる工夫をしたい。

・今回、生活介護連絡会では、執行部外の事業所にも主催を担っていただいた。ここ数年、参加事業所の顔ぶれが変わらないという課題があげられていたので、新たな参加事業所を増やす試みとしてよかった。ただし、負担も大きくなってしまうので、どのような方法がいいかは検討が必要。

・地活連絡会と学習会は ZOOM での開催となった。コロナ渦でも多くの事業所に参加頂くことができた。日々の業務に追われる中、遠方の事業所でも参加しやすいメリットがあるので、今後も積極的な活用を検討したい。

・連絡会やアンケートのなかで、共通の課題がいくつかあげられた。今後はより具体的に課題を把握し、解決への糸口を見つけていけるといい。

・地域活動支援センターのリーフレットの発行ができてよかった。

くらし 部会

部会長:富所弘行 副部会長:倉嶋孝江 倉石佳幸

運営委員会担当者: 勝山淳一 ケアマネ連絡会担当者:田中みどり 浅井芙美子

長野市障害福祉課担当者: 甲田哲也

1、年間テーマ

- ・くらしの地域課題を集める
- ・災害に関する調査
- ・世話人連絡会

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
9	28	桃の郷	14	くらし部会計画について	世話人連絡会／災害への取り組み 各事業所での情報提供(共同生活援助 ・短期入所・入所の事業所)
11	30	桃の郷	10	前期全体協議会報告	全体協議会報告 地域課題について 世話人連絡と災害の備蓄アンケート
1	18	桃の郷	8	居宅事業所の地域課題	居宅事業所の地域課題 (参加できない事業所からアンケートでの 返答)
2	22	Zoom		R3 活動のまとめ	世話人・災害の備蓄アンケート

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

世話人アンケート調査 (別表①)

災害時備蓄や避難計画のアンケート(別表②)

令和3年度 事業報告

4、課題について

(1)主な検討課題

くらしにかかる地域課題について(GH、短期入所、施設入所、居宅介護事業所)
世話人連絡会、災害の備蓄や避難計画について

(2)検討の目的と結果(現状)

くらしにかかる地域課題について集約

各事業所から課題としていることを聞き取りや情報共有をはかった
アンケート調査の実施

GH世話人災害時備蓄や避難計画のアンケート調査

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・地域課題の集約や検討(GH、短期入所、施設入所、居宅介護事業所)
- ・研修の実施(世話人連絡会)

(4)部会の運営体制について

今年度の執行部は、新体制になったこともあり、部会の運営も手探りの状況が多くあったが、各事業所と連携とりながら部会の運営を実施した。

5、総括(1年間を振り返って)

前期は、参加事業所が少ないためこともあり、あらためて各事業所にくらし部会のアナウンスを実施。感染症の関係もあり、第1回目の開催が9月に遅れてしまった。

後期は9月～12月共同生活援助・短期入所・施設入所の事業所からの地域課題を聞き取り、また、1月に居宅事業所の方に部会へ参加していただき、居宅事業所で感じている課題を話もう場を実施し、全体協議会へつなぐことができた。一昨年まで実施していた世話人連絡会については、コロナ渦での実施は難しいと判断をして、アンケート調査の実施をおこなう。様々なご意見をいただき、次年度での研修会へ引き継ぎをおこなう。

グループホーム世話人アンケート集計結果

長野市障害ふくしネット
くらし部会執行部

一昨年まで世話人連絡会をおこなっていたが、この2年間ほどは感染症関連で実施ができないままであった。部会の中でも、他のグループホームの世話人との交流や情報交換の場があるとありがたいとの話をあった。

執行部で検討し、集合研修は難しいが、アンケート形式で日ごろの業務内容、楽しみや困っていることの聞き取りをおこない、次年度に研修会を実施する流れとした。

■実施時期：R4年1月11日～2月28日まで

■回答数：85名

Q1、日頃の業務内容を教えてください。該当する項目に○をつけてください（複数可）。

選択内容	回答数
調整	73名
身体介護	18名
通院付き添い	7名
ハウスキープ（掃除・洗濯）	59名
その他	金銭のサポート、買い物付き添い

Q2、何名の住居を担当されていますか？

人数	回答数
住居2名	1名
住居3名	2名
住居4名	31名
住居5名	13名
住居6名	15名
住居7名	9名
住居8名	3名
住居9名	11名
住居10名以上	3名
併設短期入所	4名

Q3. 調理業務について（複数可）

選択内容	回答数
朝食	60名
昼食	36名
夕食	53名

Q4. 料理の提供方法はどんな方法をとっていますか？（複数可）

選択内容	回答数
世話人が材料を購入して、調理し提供	42名
食材を配達してくれるのでそれを調理する	39名
調理されたものを温める	25名
その他	宅配お弁当

Q5. やりがいを感じるどころ・楽しいと感じる所はどんなところですか？

分類	内容
利用者のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・粉物が中心ですが皆様何もおっしゃらず召し上がってくださるのでありがたいです。なかには「美味しい！」と言ってくださる方もいらっしゃいます。 ・食事において、利用者さんが食べられないと思っているものがあるとき、少し工夫して調理をすることが楽しいと思っています。その料理を全部食べられた時などにやりがいを感じます。 ・美味しかったと言われる時 ・利用者より「おいしい」と言ってもらうとうれしい。 ・作った食事がおいしいと言ってきて嬉しい。 ・手作りの食事をおいしいと喜んで頂けると嬉しいです。 ・調理の仕事ですが、食事の後「あーおいしかった」と一言聞いた時ほっとします ・残さず食事を召し上がっていただいた時。
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の笑顔を見られた時。 ・良い支援が出来て利用者が笑顔で生活している姿を観れた時。 ・会話をしている皆様と笑うこと ・ケンカした後仲直りしてみんなが笑顔になった。 ・精神安定をはかるための利用者とのやり取りで、穏やかな表情がみられた時。 ・冗談が笑いに変わった時ホッとする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・有難うと言われた時。 ・食後「ありがとう」「おいしかった」「ごちそう様」と言われた時はうれしい気持ちになる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・退勤時に「ありがとう」と言われたとき感謝されているんだなあーと思っています。
利用者のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士の助け合い、良いコミュニケーションが見られたとき ・人と人との交流の中でその交流をいかに楽しく過ごせるようにするかに楽しさを感じます。 ・ちょっとしたやりとりの中でお互いに言葉のやりとりが通じた時。 ・女子の場合、みそ汁作りや卵焼きなど、調味料や細かい煮方など、自分の得意とする分野を褒めた時、お互いに満足がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・出来なかったことが出来るようになった時 ・日ごろ支援して利用者さんが今までやらなかった又は出来るようになった時は、楽しくなる。 ・言ったことを少しずつ覚えてできるようになった。 ・利用者が良い行動や気持ちをもち変化していくところ ・利用者がサービスを受けながらも自分なりの生活を確立していく過程を支援していくこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームに行くのを待っていてくれる。 ・今度いつくる。気を付けて帰ってね。ありがとうおいしかったと言われること
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活の一部を担っている（家族のかわりと言ったら言い過ぎかもしれないがやりがいを感じる） ・都合で家族と暮らせない方々の、手助けになっているのかもしれないと思える事があった時。
	<ul style="list-style-type: none"> ・普段はほとんど口数がない方が、玄関の音が聞こえたのか飛んできて「明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。」とホームでは一人だけ挨拶してくれた時、とてもうれしかった。 ・会話の中で意志疎通がスムーズにできた時。
	<ul style="list-style-type: none"> ・話し難そうなことを話してくれた時、少しでも信頼関係を築けたかなと思わせてもらえる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいでも苦しんでいたり、つらそうにしているとき、見守ったり、声掛けをし、寄り添えることにもやりがいを感じています。
食事に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったご飯の感想をもらった時「美味しかったよ」言ってもらえた時には特に嬉しい、やっけていて良かったと思える。 ・食事が美味しいと言われた時。 ・さもないおかずでも美味しいと食べてくれるところ。 ・調理しみんながおいしいと喜んで食べ1つ残さず食べてくれること。

	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい・ありがとうと言われるとうれしいです。 ・食事おいしいと言って食べてくれた時 ・食事おいしいと言って食べていただいている時 ・利用者さんが残さず食べた時は「おいしかった。」等言って頂いた時。
	<ul style="list-style-type: none"> ・献立を自分で考えて材料を買い作れるところが楽しい。 ・メニューにそって食材や調理方法を考えて作ることが楽しい。間食されるとやりがいを感じる。 ・入居者の希望をそれぞれ聞き入れつつ、かたよらないように工夫して栄養バランスをとりながら、食材費内におさめるところ ・調理したお料理を残さず食べてもらえたり、利用者一人一人の個性こだわりみたいなものが分かって来て楽しい。 ・決められた予算内で何を作ろうか、喜ばれるか考えることが楽しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に掃除・洗濯を行い、ひとつひとつ覚えていただき、一人でも出来るようになっていけると良かったと感じる！
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・社員の方、皆さんに優しく色々教えて頂けるので感謝しています。 ・一人でマイペースに仕事ができる事が私にとっては楽しいです。 ・掃除をしてきれいになった時。私自身が高齢であるが、仕事ができている時。 ・名前と呼ばれたとき。(世話人さんではなく) ・一日一日が必死のため、やりがい、楽しいは感じません。感じることもあるとすれば、世話人としての業務から身を引いた時に振り返りでやりがいがあった、又は楽しかったと思いつくことがあるのだと思います。

Q6.支援する中で困ったことを感じるころはどんなところですか？

困ったときに相談はどのようにしていますか？

分類	内容
支援方法と特性	<ul style="list-style-type: none"> ・わけもなく怒ったり泣いたり騒いだ時の対処が大変です。皆さんそれぞれ個性があり、同じ対応はできず、その人に合った支援が必要になり、まだまだ未熟な私には大きな負担と感じています。利用者さんの言葉が理解できず、わかるまですごーく時間がかかりイライラさせてしまいます。利用者さんの言葉が理解できず、わかるまですごーく時間がかかりイライラさせてしまいます。体調不良を訴えられた時が一番困ります。 ・利用者さんが不安定になった時の対応の仕方には苦慮します。 ・精神が安定していない利用者への声かけ ・急に大きな声を出したり、騒いだり、暴れたりする事がたまにあります。どう対処したらよいか分からない。 ・怒ったりイライラしたりすると、部屋にあるものを投げたり、蹴とばしたり

	<p>して暴れる。大きな声で叫ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人がホームの外用件で出ていると、鍵をかけて入れなくする。 ・面白くない事や、大切な物を無くしたりすると、壁やドアを力任せに叩いて壊す（男性） ・体調が悪いのに、聞いても痛いのを我慢してなかなか言ってくれない。 ・利用者の怒りが爆発して利用者同士が争いになった時。
<p>支援方法と 特性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の話の内容が理解できず会話がかみ合わない時 ・利用者とのコミュニケーションがうまく取れずぶつかってしまう時、一人体制なのでどんなに気まづくなくても逃げ場がなく、やり通さなければならない状況になったとき ・利用者さんが言っていることがなかなか理解できない時困ります。 ・利用者さんとコミュニケーションが上手くいかない。訴えている内容が理解できない ・言葉がよくわからないときがある ・利用者さんの意味不明の怒りに、ただ待っている時。 ・利用者さんの特性を理解できないときがある。また、その対応ができないときには自分をもどかしくなる。 ・時々浮かない表情をしている方を見受け、何のストレスかなと心配な時もある。職員に相談している。 ・機嫌が悪く、怒ったり当てられたりすると困ります。 ・利用者が興奮状態となり、説明しても受け入れることができない時。 ・利用者同士の意思疎通が難しい時。 <p>・個別化された対応を職員はしているつもりでも、利用者からすれば自分はやってもらえないとうつることがある。特に一戸建てタイプのGHではそう受け取られることがある。色々と言われた時に困る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとっては生活の一部のプライベートな空間について尋ねることになる。介入するラインとタイミングがとても難しい。 ・優しく接してあげるのは当たり前のことなのです。どんどん入り込んでくるので匙加減が難しいです。 <p>・この施設に入った動機は、ボランティア団体にこのホームの朝食、夕食作りをしてくれる人はいませんか？とチラシが回って、何回もそのチラシを目にしていたので、何も分からずお手伝いできればと思い入りました。何も分からず</p>

	<p>学生の傾知的障害施設に実習に入っただけで、利用者との関りはないので、どの程度に手を出したり、どう関わればよいのか分からず困っていました。一人一人のどこまでできるという能力の差はあるのですが、お一人お一人それぞれ違いがあるので、慣れるのに大変でした。子供と違い、ある程度生活年齢を重ねた人達に「プライド。」あるそれぞれの関わり方、指導の口の利き方難しさを感じます。共に生きる中で、こちらが学ぶ事もたくさんあり、一人一人にあったかわり方が大変難しいものがあると思います。学習会があり、この時はこつと対処マニュアルをもらった時は、大変ありがたかったです。</p>
<p>支援方法と特性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化しているので、少しずつできなくなってきている方への、支援のありかたを変えて行かなくてはいけないと思いますが、どうすればよいか可能性を奪ってしまってよいのか。 ・おしゃべりが止まらなくうろうろとまつわりつく事。 ・コロナ禍で、マスク・手洗い・うがい・など感染症対策に日々で、普段行われていた支援が十分できない場が増えてきたように思います。本人は大変申し訳ないと思いますが、仕方ないことか・・・。迷っています。 ・食事以外で食べ物を欲しがる時あげてよいか迷う時がある。 ・固執した考えから、気持ちを切り替えさせるための声掛け。 ・障害の区分が上がる程、利用者様の我が強く、やってはならない行動が、利用者様本人にとっては、そうするのが当たり前になっているので、なかなか行動改善につながらないこと。
<p>体調管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体調悪化に伴い利用者自身が辛い思いをしている時、自分の力量が不足していると感じる。 ・季節変化で体調が変化してしまい、受診同行、入院の方向に向かってしまった時はちょっと落ち込みます。 ・日によって体調が不調（声出し、自傷など）だったりしたとき困る。 ・突発的な頭痛、腹痛、下痢等の対応が困ります。
<p>世話人業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一分一秒に忙しい時に料理している所に入って来られると困る時があります。誰でも入って来られる所なので我慢しています。 ・食事を作っても利用者さんが食べてもらえない時は、長くいるスタッフさんにこだわりや好みをお聞きしながら、その方の食べてくださるより近い形に工夫しています。 ・作った食事をすべて捨てられてしまった時。 ・事務所からの連絡が世話人まで回ってこないことがあり困ることがある。 ・できるだけニコニコの表情で顔を見て接するようにしている。 ・言っではいけないこと、やっではいけないことなど具体的にわかると世話人としての支援の幅がもっと広がると思います。また、事業所、担当職員さん、

	<p>他の世話人さんとの情報の共有や、コミュニケーションをとることがもう少し頻繁にできると、支援もスムーズになると思っています。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人が意思決定できない利用者への支援について他の職員の意見を聞く。 ・ 支援に困った時は担当職員に相談している。 ・ 利用者との長いこと接しているため、だいたい対応出来ていてあまり困ったことはないが、その時は職員に相談している。 ・ 他の世話人さんと意見が合わず困った時は職員さんに状況を話し対応を考えて頂きます。 ・ 支援員に相談している ・ 上司への相談・部署内で話し合う ・ 担当の職員さんに相談します。聞いてくれます。 ・ 困ったときは施設職員に連絡する。 ・ 困ったときは事務所に支持を仰ぎ確認している。 ・ 夜に困ったことがおきた時、事務所の電話が繋がらないことが多いので心配です。 ・ 思いがけない行動や言葉を口にして困らせる事もありつい自分も言葉がきつくなることもあります。そんなときは事務所へ連絡します。 ・ 課題を事務所に話してもしっかりした答えがない時があると困る。 ・ 親御さんとの関りは避けられませんが、あまり好みません。嫌な思いはセンターの職員さんにい聞いて頂いています。愚痴をこぼしてばかりですみませんが、それで気持ちは収まっています。ありがとうございます。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援に困った時はヘルパーさんに相談している。 ・ 世話人同士で状況をシェアしあう。当人同士で納得できるように話をするようにして、それでもうまくいかない場合などに相談し、交えて話し合いをする。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ その日その日でスタッフが違うので皆さんの意見を聞いている。 ・ 世話人さん同士で話をしたり、2か月に一回の世話人会で話をする。事務所に電話確認する。 ・ スタッフ間、関係機関との連携（考え方・支援の方向性がかみ合わない時） ・ 困った時は職員さんや世話人さんに相談しています。 ・ 一人で働きやすく活躍できる場所ですが世話人の気持ちも考えてもらいたいことがある。 ・ 上司の方からは、随時様子の確認をしてもらえているので、都度報告をして次に行うべきアドバイスをもらっています。また、緊急の時はTELにて内容を伝え、利用者様に本人と上司の方でやり取りしてもらい、その結果より対処法をアドバイスしてもらいます。

<p>困った時の 相談先</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 所長や社員の方に相談している。 • 困ったことは上司に相談する。 • 困ったときは上司や相談員に連絡を取ります。 • 相談はサービス責任者にしています。 • 支援員さんに知らせてみて頂く。 • 担当職員に相談する。 • 支援員、世話人に相談し一人で考え込まないようにしています。 • 他の世話人や支援員に相談する。 • 困ったときはほっとらいふに相談します。 • (対応がうまくいかずもどかしさを感じたときは) ほっとらいふの職員に助けを求めたりする。また、同じ世話人に相談をしたり、どんな対応をしているのか聞く。 • 地域センター職員に相談する。 • 相談は職員や市の職員など周囲の人に相談している。
----------------------	--

地域でいこう委員会

委員長 春日直子(さくら相談支援センター)

副委員長 鎌田直樹(ポコアポコ) 両角佳子(ほっとらいふ相談室)

運営委員会担当者 岸田 隆(森と木) 大池ひろ子(絆の会)

ケアマネ連絡会担当者 田中みどり(南部障害者相談支援センター)

小林千香(北部障害者相談支援センター) 坂口和美(障害者地域移行コーディネートセンター)

長野市障害福祉課担当者 小林由典

1、年間テーマ

地域移行支援推進のためのガイドブック作成

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容	
月	日					
4	15	ZOOM	11	今年度の活動について	年間計画の検討、共有	
5	21	長野市保健所	12	退院支援連絡会・ガイドブック作成 地域移行支援の現状	内容検討、情報共有	
6	28	長野市保健所	12	//	//	
7	27	長野市保健所	13	//	// 年間開催日決定	
8	25	ZOOM	11	//	//	
9	21	ZOOM	15	//	//	
10	22	長野市保健所	12	//	//	
11	19	長野市保健所	13	//	//	
12	23	長野市保健所	14	//	//	
1	21	*新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止				
2	17	ZOOM				
3	17					
		執行部 20 回開催(ガイドブック作成)				

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

地域移行支援 支援者向けガイドブック(3 月末発行予定)

令和3年度 事業報告

4、 課題について

(1) 主な検討課題

- ①支援者向けガイドブックの作成
- ②精神障害者の退院支援・地域生活支援連絡会(以下退院支援連絡会)の内容検討

(2)検討の目的と結果(現状)

- ①支援者、関係機関等に対し、地域移行支援の流れや制度について情報提供を行なうことで、地域移行支援の促進を図ることを目的とし、支援者ガイドブックを作成した。
- ②地域移行支援推進のため、退院支援連絡会への協力を行なった。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ①ガイドブック、VTR の取り扱い方法
- ②新しい生活様式に対応した地域移行支援、地域定着支援の有り方
- ③特定一般相談支援事業所間の連携、情報共有
- ④委員会運営体制、構成メンバーの見直し

(4)部会の運営体制について

構成メンバー、参加者が限定されつつあるが、地域移行支援を拡充させるためには多様な参加者による検討が望ましいと思われる。

5、総括(1年間を振り返って)

支援者向けガイドブック作成に伴い、委員間の情報共有、つながりを持ちながら完成に至ったことは良かった。コロナ禍ではあったが、委員会の開催方法を工夫することで、多くの検討の機会を作ることができた。

委員会内だけでなく、地域移行の現状を発信する機会の必要性も感じた。今後は特定一般相談支援事業所間の連携等を検討し、地域移行支援の促進を図っていきたい。

やさしいお店プロジェクト(ワーキング)

部会長 吉池隆幸(デフネット) 副部会長 大日方勇((有)ドンキホーテ)

運営委員会担当者 岸田隆(森と木)

ケアマネ連絡会担当者 二木里美(南部センター)小林千香(北部センター)、
奥村和枝(サポートセンター)

長野市障害福祉課担当者 菊池康弘

1、年間テーマ

やさしいお店登録制度の広報活動を通して、障害者差別解消法における不当な差別的取り扱いの禁止や合理的配慮の提供に努めることができる民間事業者を増やし、障害のある人の社会参加を応援することを目的とする。

2、部会等の開催状況

日時	会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容	
月	日				
5	26	森と木	6名	執行部	今年度の活動計画
6	29	市役所講堂	19名	今年度の活動計画	広報活動について タウンミーティングについて 大判ステッカーの配布について
7	14	篠ノ井駅周辺	6名	広報活動	
8	26	トイーゴ周辺	6名	広報活動	
9	16	末広町周辺	4名	広報活動	
1	18	ドンキホーテ	6名	執行部	タウンミーティングについて
2	18	ドンキホーテ	6名	執行部	タウンミーティングについて
2	22	オンライン		タウンミーティングについて	タウンミーティングについて 事業報告
3	24	トイーゴ		タウンミーティング	講演 「長野市のやさしいお店を応援します」 講師:野沢和弘氏 シンポジウム:登録店店主

令和3年度 事業報告

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

- ①タウンミーティングの実施
- ②やさしいお店登録店一覧表(別添資料)

4、課題について

(1)主な検討課題

- ①やさしいお店登録制度の広報活動
- ②タウンミーティングの実施

(2)検討の目的と結果(現状)

登録店は260軒程度となり、今年度は170軒程度の登録があった。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

やさしいお店登録制度の広報活動と登録申請の促進

(4)部会の運営体制について

福祉関係者だけでなく飲食店やコンビニ等の事業主に部会メンバーに加わってもらうことで、より積極的な広報活動を行うことができた。

5、総括(1年間を振り返って)

やさしいお店登録制度も2年目となり積極的な広報活動を行うことができた。部会メンバーの紹介で多くのコンビニや飲食店、さまざまな業種の事業者の登録が増えた。また、ローラー作戦で、実際にお店に出向いて説明をすることで、理解を深めることができ、長野市内でステッカーを見かける機会が増えた。後半はコロナ禍で営業活動をし難い状況もあったが、来年度も継続して粘り強く広報活動を進めていきたい。

医療的ケア支援委員会

部会長 小山勝章(森と木)

副部会長 金井佑樹(ほつとらいふ相談室)、小林祐子(稲荷山医療福祉センター)

運営委員会担当者 木下(歩楽里) ケアマネ連絡会担当者 小池、本藤

長野市障害福祉課担当者 古平、今井

1、年間テーマ

地域課題の整理(地域資源マップの作成)と施設で働く看護師に向けた研修会等の

企画、運営

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
7	20	にじいろキッズらいふ		今年度の取り組みについて	医療的ケア支援委員会で検討すべき課題の共有(各機関で感じている課題の情報共有) 執行部体制
10	28	Zoom		WG での検討と情報交換	・施設看護師研修会の企画検討 ・地域資源マップの作成の目的等の共有
12	13	にじいろキッズらいふ		WG での検討と情報交換	・施設看護師研修会に向けたアンケート作成、施設実習への協力依頼 ・地域資源マップの作成イメージの共有
1	6	Zoom		WG での検討と情報交換	・アンケート結果のまとめ、施設実習のとりまとめ ・地域資源マップの項目あげ
2	21	Zoom		今年度のまとめと来年度への引継ぎ	

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

- (1)看護師研修に向けたアンケート調査、実地研修の企画
- (2)地域資源マップの作成

令和3年度 事業報告

4、課題について

(1)主な検討課題

- ①施設で働く看護師のための研修や意見交換の場が不足していることを受け、実地研修の機会や意見交換の場をつくるための企画、運営を行った
- ②医療的ケアを必要とする人が地域で暮らすうえで必要な日中活動の福祉サービス事業所が一目でわかるようなマップを作った

(2)検討の目的と結果(現状)

- ①新型コロナウイルス感染症の罹患者が増えたことで施設実習を行うことはできなかった。受入可能な事業所等はアンケート調査で把握できているため、次年度では実施していきたい
- ②資源マップの構成については完成したため、来年度発行予定の情報ツウや通所ガイドブックの付録として掲載できるように準備をすすめたい

(3)引き続き検討が必要とされる課題

- ・医療的ケアを必要としている人が増えていると言われているが、実際長野市ではどのくらいの人がいるのか、福祉サービスを利用したいが使えない人がどの程度いるのかを把握していく。
- ・医療的ケアを必要とする人たちは災害弱者となりやすいことを受け、長野市の防災対策の確認や、医ケア版避難マップ等についても検討していく。
- ・長野市における医療的ケア児等支援連携推進会議の運営について確認が必要。

(4)部会の運営体制について

執行部体制は、福祉事業所、相談支援事業所、医療機関から各1名

5、総括(1年間を振り返って)

今年度も新型コロナウイルス感染症によって会議の開催が左右された。医療的ケア支援委員会ではワーキンググループに分かれての課題検討になっていることもあり、Zoomでの会議では資料の確認等がうまくできず、参加者からの意見をもとに十分な議論ができたか疑問である。

ただ、その中でもそれぞれのワーキンググループで必要な議論をすすめ、感染症対策の研修会を実施できたことや地域資源マップの形が整えられたことは成果として挙げられる。

来年度はできるだけ早い時期に、施設で働く看護師の実地研修が実施できるよう準備を進

令和3年度 事業報告

めるとともに、地域資源マップを完成させ、施設ガイド、情報ツアーなどの発行物に付録として添付してもらえよう提案したい。

ケアマネ連絡会

1、主な構成メンバー

- ・長野市障害福祉課
- ・長野市北部障害者相談支援センター(5名)
- ・長野市南部障害者相談支援センター(4名)
- ・長野市北部発達相談支援センター(1名)
- ・長野市南部発達相談支援センター(1名)
- ・長野市障害者権利擁護サポートセンター(2名)
- ・長野市障害者地域移行コーディネートセンター(1名)

2、今年度の取り組み

障害のある人が地域で安心して暮らしていくための相談支援の仕組みを検討し今年度から、北部、南部のセンター体制でのスタートとなった。ふくしネットへの関わりやケアマネ連絡の役割について再検討の1年となった。ケアマネ連絡会の内容を吟味し月1回の定例会として会議をもった。

会議の主な内容は、各部会等の活動状況の共有、ケース検討、地域課題への取り組みについて検討された。

3、ケアマネ連絡会の活動状況・主な成果と課題

(1)ケアマネ連絡会 相談支援センター活動報告

【長野市障害ふくしネット】

事業名・事業内容	内容	活動実績
各部会への参加	各部会・委員会の定例会と執行部への参加	ケアマネ連絡会より代表者が、各部会・委員会の定例会・執行部へ参加し、会議の内容をケアマネ連絡会で報告・課題等情報共有をおこなった。
指定相談支援事業所連絡会	○長野市内の指定相談支援事業所の相談支援専門員の定例会議 ・情報提供(行政から、新規事業所紹介含む) ・テーマを決めてグループワーク	4月 誰でも研修会(Zoom) 6月 第1回連絡会 新規事業所紹介(6事業所)/情報提供(若者キャリアステーション/障害福祉課)/報酬改定についての説明とグループワーク 8月 第2回連絡会 新規事業所紹介(4事業所)/訪問薬剤管理について/グループワーク「CWと話そう」

令和3年度 事業報告

		<p>10月 第3回連絡会 新規事業所紹介(9事業所)/障害福祉課より連絡事項/グループワーク(テーマ別:介護保険・地域課題・プラン作成)</p> <p>12月 第4回連絡会 新規事業所紹介(3事業所)/障害福祉課より連絡/研修「民生委員の役割について」/グループワーク「プラン作成について」</p> <p>3月 第5回連絡会 新規事業所紹介/障害福祉課より連絡/研修「1年の振り返り」「地域ごとの課題、社会資源の確認」/新旧執行部のあいさつ</p>
部会長連絡会・運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長連絡会 ・運営委員会 ・事務局会議 	<p>運営委員会、事務局会議へ、ケアマネ連絡会からも代表者が参加し、運営委員会の議題整理、地域課題の共有、検討が行われるように努めた。</p> <p>運営委員会で検討された事項をケアマネ連絡会で情報共有した。</p>
ふくしネットフェスタ	<p>障害理解・啓発活動の為にイベント、映画上映、障害のある人のアート作品の展示、福祉事業所の製品販売を行った。コロナ禍、検温や受付での名簿作成、展示においては人数制限を行って開催した。</p>	<p>10月27日 長野市芸術館 3F アクトスペース/1F 展示サロン/桜スクエアにおいて開催</p> <p>映画上映会「ふたり～あなたという光～」3回上映。障害当事者の作品の展示、福祉事業所製品の販売を行った。</p>

【会議等(長野市)】

事業名・事業内容	内容	活動実績
長野市特別支援教育 Co 連絡会	<p>学校教育課主催。小中学校が支会毎に集まり、適切な支援を行うための体制づくり、支援の充実を図る。特別支援教育コーディネーター参加</p>	<p>特別支援教育コーディネーターの運営委員会にケアマネ連絡会こども部会担当者が出席</p> <p>連絡会運営に関わる計画など(年3回)</p> <p>各支会の連絡会については、年3回予定</p>

ケアマネ連絡会

令和3年度 事業報告

		されていた。新型コロナウイルス感染防止の観点も含め毎回、教育関係の研修動画の配信と福祉関係者も含めた意見交換会で構成されていたが感染拡大により2回中止となり、内容も学校関係者の研修になっていたため、教育と福祉の連携という意味では十分なものにはならなかった。
障害支援区分認定審査会	障害支援区分の審査	・1回平均30件行った。 ・感染状況から文書審査となった。
長野市教育支援委員会	特別支援の配慮が必要な児童生徒への適切な判定を検討する委員会への参加	16回開催
長野市障害者虐待防止連携協議会	保健医療関係・障害福祉関係・警察・司法関係・行政機関・長野市が参加し、R2年度活動報告、R3年度活動方針のほか「障害福祉事業所での虐待防止の取り組みと課題」等事例報告をいただき、各関係機関との意見交換を行った。	R4年1月19日(リモート会議)に長野市障害者相談支援センターとして出席
長野市障害者差別解消連携協議会	保健医療関係・障害福祉関係・警察・司法関係・行政機関・長野市が参加し、R2年度活動報告、R3年度活動方針のほか「知的障害のある人への職場の理解について」「精神障害のある人をとりまく現状と課題」について当事者から体験発表を受けて、各関係機関と意見交換を行った。	R4年1月19日(リモート会議)に長野市障害者相談支援センターとして出席
長野地域成年後見支援ネットワーク協議会	長野市成年後見支援センターの運営及び成年後見制度の利用促進に関わる会議への参加	書面会議の開催(2月) ・正副会長の選出 ・各市町村における利用促進の対応状況 ・長野市成年後見支援センターの運営状況

令和3年度 事業報告

<p>地域発達支援会議</p>	<p>保健センターブロックごとに (8 か所で開催) 平成 26 年度から地域発達支援会議が開催。関係者の顔が見える関係づくりや関係機関が連携を取りながら支援できることが目的 参加者: 幼稚園 保育園 認定こども園小学校 特 Co 教頭 等 福祉 相談支援専門員 児発管 委託相談員 行政 保健センター 子育て支援課 学校教育課 等</p>	<p>今年度の内容 乳幼児期から支援してきた児の就学後の様子の事例提供と支援内容についてそれぞれの立場から児の必要な支援について各方面からの意見交換 SV(医師・作業療法士・日本相談支援専門員協会顧問・特別支援教育士 SV等)からのアドバイス いずれも Zoom での開催</p>
<p>地域福祉関係者連携の会</p>	<p>○保健センターブロック毎に開催 ・保健センター保健師の参加 ・包括支援センターの参加</p>	<p>・松代若穂地区地域連携の会 1 回 ・第3, 4, 5地区地域保健福祉関係者連絡の会 2回</p>
<p>第4次長野市地域福祉計画策定市民企画作業部会・幹事会</p>	<p>・住自協(32 地区)・NPO・介護保険施設・サービス、障害福祉施設、地域包括支援センター、生活困窮者支援、児童福祉関係者、教育関係者、災害対応、障害ふくしネット、地域包括ケア推進課、市社協地域福祉課、福祉政策課の部会員が定期的に集まり、R4 年度から R8 年度までの 5 年間の計画策定に向け、生活課題の抽出・整理や必要な方策、地域福祉推進体制について検討した。 ・作業部会毎回の開催に向けての幹事会に参画し、部会の進行や内容を検討した。</p>	<p>・5/24~10/27(年 6 回) 策定市民企画作業部会に参画 ・6/16~10/21(年 8 回) 策定市民企画作業部会幹事会に参画</p>

令和3年度 事業報告

長野市ひきこもり支援ネットワーク会議	・ひきこもり支援を推進するための必要な情報交換 ・関係機関等の連携の在り方についての協議及び調整など	11月開催 まいさぼ、職安、農業公社等・長野市の取組やプラットフォームについて説明 ・関係機関の情報交換 早い段階で支援に繋げること・段階に応じた支援・本人や家族への理解等の大切さを共有した。「どうしていくか」を共に考えられる場になるといい。
重層的支援体制	重層的支援体制整備事業の移行に向けた関係支援機関との意見交換会	11月開催 まいさぼ、包括支援センター、児相等重層的相談支援体制整備事業の概要の説明、市の取り組み状況、関係機関の現状や課題を聞くことはできた。 今後の長野市の動向を見守りながら、できる部分で協力していきたい。

【会議等(長野県)】

事業名・事業内容	内容	活動実績
障がい者相談支援体制機能強化会議	各市町村のセンター代表と、市町村の行政が参加。 県の協議会に位置づけられた会議として、各地域の障害者相談支援体制の整備及び質の向上を目的とする。	・6回開催 ・地域生活拠点、障害福祉計画・障害児福祉計画について毎回市町村、自立支援協議会の事前の報告のシートを使いながらグループワークを行った。
長野県自立支援協議会	長野県自立支援協議会の各部会の活動状況や各市町村の状況についての報告	3回参加(6月、11月、3月) ・第1回 長野県自立支援協議会について/障害者相談支援体制について ・第2回 障害者相談支援体制を基盤とした障害福祉計画等の推進について ・第3回 地域生活支援拠点等の運用状況について/圏域からの課題について 県自立支援協議会全体の様子・動向を把握し、ふくしネットの運営に繋がられるよう運営委員会への報告も行った。
長野圏域自立支援協議会連絡会議強度行動障害に係るワーキング	強度行動障害のある児・者に関する課題を調査・研究を行う。長野圏域内の福祉事業所、支援学校、医療機関、行	2月4日 第一回ワーキング開催 ・ワーキング座長決め ・ワーキングの目的及びスケジュールの確認

令和3年度 事業報告

	政、相談支援センター、発達障がいサポマネ等が参加。	・メンバーそれぞれが感じている課題の共有 ・実態調査に向けて調査方法等の検討
--	---------------------------	---

【人材育成 地域課題】

事業名・事業内容	内容	活動実績
長野市障害者相談支援専門員等スキルアップ研修	相談支援専門員や支援に携わる支援者等を対象とし講義及び演習から支援の質の向上や支援スキルを高めることを狙いとした研修の実施をした。	2回開催 11月24日(水)14時～Web「意思決定支援の考え方と取り組み」講師：山本恭子(山本恭子法律事務所弁護士) 2月14日(月)15:00～Web「支援者の建設的なコミュニケーションとセルフケアについて」講師：行田大樹(信州松本心理オフィス臨床心理士・公認心理士)
相談支援従事者研修	長野県が主催し、長野県相談支援専門員協会が実施した初任者研修・現任者研修に演習講師を務め、インターバル(実地実習)を行った。	初任者研修の演習講師は3名、インターバルは集合研修1回、南北センターにてそれぞれ2回個別で実施。(受講者16名)現任研修の演習講師は1名、インターバルはオンラインにて集合研修1回、個別研修1回実施(受講者13名)
困難事例の検討	委託専門員や市のCWが抱えている困難なケースについて、ケアマネ連絡会の中で検討を行った。	・中山間地で短期入所を利用する際の送迎についてのケースがあげられた。今後の地域課題として検討していく必要がある。 今後プランナーとも困難事例の検討をしていく必要がある。

(2)総括

①長野市障害ふくしネット(板倉)

運営委員会で検討された方針[ケアマネ連絡会は地域課題などの抽出や共有、連絡等を意識すること]にもとづいて、障害者相談支援センター専門員の役割も併せて検討し、ケアマネ連絡会を月に1回の頻度で開催し、担当を決めて各部会・委員会及びその執行部へ参加した。

[ふくしネットへの参画について]

現在は委託相談やふくしネットの過渡期であって、今年度から長野市の障害者相談支援体制(委託相談)が変わった中では、ふくしネットの運営やケアマネ連絡会の役割、位置づけを明確にすることが十分にできなかった。ふくしネットの運営や運営委員会の見直し、委託相談の役割の整理と併せてふくしネットへの参画について検討し、ケアマネ連絡会(障害者相談支援センター専門員)が参加する役割や位置づけについて、改めてふくしネット全体の中で確認し、ケアマネ連絡会(障害者相談支援センター専門員)が同じスタンスであ

令和3年度 事業報告

ることを再確認して参加することが必要であると感じられた。

また、ふくしネットがさらに充実・活性化していくために、望ましい協議会像を全体で検討、共有し協議会の機能(情報・調整・開発・教育・権利擁護・評価)から見直しをして、その中でケアマネ連絡会の役割、地域課題の集約・共有の方法やそのあり方を整理していくことが必要であると感じられた。

また、長野市障害者相談支援センター専門員は、長野県や長野圏域の連携会議などに出席する機会もあり、他圏域など広域的な情報が得られるが、それをどこで、どのように共有するかということについて、必要性和共に難しさを感じている。ふくしネットを通じてなどの方法で、必要な情報を発信して共有する方法について検討していきたい。

[地域課題の検討について]

今年度、ケアマネ連絡会の役割として地域課題の検討を意識してふくしネットに参画したが、全体としてそもそも「地域課題」とはどういったものであるのかというイメージの共有、「地域課題」抽出、集約や検討の方法など、あらためて確認・検討することが必要であると感じた。

将来的には、相談支援専門員からの地域の実態、課題の共有・検討や主任相談支援専門員との連携から、地域課題の抽出や集約の方法について検討していきたい。

②地域課題の検討

ふくしネットの役割として、地域における課題の抽出と検討を行い、障害福祉の社会資源や体制の整備を行っていく役割がある。ふくしネットが発足された当時から、どのように地域課題を検討していくかを試行錯誤しながら行っている。

今年度は障害福祉の課題は当事者、相談支援者、サービス提供事業所、それぞれの立場によって違う事も踏まえ、各分会で検討し様々な立場から全体協議会に課題が提された。

出された課題は運営委員会の中で優先順位の分類をし、来年度はこの分類をもとに検討されることになる。各分会から出されことで、ふくしネットとして地域課題への意識の共有が図れたのではないかと感じている。

来年度ケアマネ連絡会としては、関係者でのワーキングのマネジメントを行い、地域課題解決の方法をひとつでも形作られるよう検討をしていきたい。

③相談支援体制

今年度は、コロナ禍が長引き、対面・集合形式の会議からZoom会議へ、会議の在り方が大きく変化した。リモート会議の参加のしやすさから、ケアマネの多くが県・圏域単位の協議会や会議に触れる機会も増え、共通の話題やテーマをもとに他市町村の実践や取り組みを目にする機会も多くなったことで、現時点での長野市の相談支援体制を見直す機会にもなったように思う。

今年度4月に北部相談支援センターが開所し、南北相談支援センター併せての会議需要も増え、昨年度まで継続してきた圏域コーディネーターとの連絡会は、今年度は開催できなかった。

また、圏域内の総合相談支援センター同士が顔を合わせる機会が減ったことで、圏域内の各々の実情や課題についても見えなくなってきたといった声も挙がってきている。来年以降は、必要性に応じてあり方を見直していく必要がある。

そのような状況において、今年度は、南部・北部相談支援センター・専門相談が月1回ケアマネ連絡会とし

令和3年度 事業報告

て集まり、市や委託相談から見えてくる地域の実情や気づき・課題について話してきた。

そのほか、計画相談を担っている相談支援専門員と連携していくために、指定相談事業所連絡会の開催やスキルアップ研修の企画、初任・現任研修の地域でのインターバル実践をとおして繋がれる機会を作ってきた。

その中で、事例検討の必要性や、事業所の相談支援専門員からの課題抽出のあり方、一人事業所のフォローやバックアップ体制についての現状や課題も挙がってきた。それらを踏まえ今後の取り組みのひとつとして、委託と事業所の主任相談支援専門員が集まり、相談支援体制のあり方や担う役割について話せる場の企画案も挙がってきている。

そのほか、地活の相談と委託相談、基本相談と計画相談の兼ね合いについても今後整理していく必要もあり、来年度以降は、より重層的なメンバーによる重層的な相談の在り方や役割を検討できる体制が目指される。

【相談支援センター活動報告】

○長野市北部発達相談支援センター・長野市南部発達相談支援センター

(1)主な相談内容

- ・児童発達支援事業、放課後等デイサービスなどの利用希望者の対応。(サービス利用の説明、事業所の紹介等)
- ・困難ケースの対応。(児相の関係しているケースや要対協となっているケースの関り等)
- ・子どもの発達や特性に関する相談

(2)実績

①相談件数:2415件(R3.4月～12月) ※内新規:約300件

②会議や相談会等への出席:

- ・じゃんけんぼんでの療育相談会(月1)
- ・ふくしネットへの参画
- ・圏域子ども相談連絡会(年2)
- ・中央児童相談所と発達相談支援センターとの意見交換会
- ・南北発達相談支援センター会議(月1)

③その他

- ・相談支援事業所への巡回訪問
- ・保健センターの保健師と、支援の必要なお子さんのいる家庭への家庭訪問 等

令和3年度 事業報告

○長野市障害者権利擁護サポートセンター

(1)主な活動

- ・障害者虐待、差別解消に関わる相談受付
- ・障害者の虐待防止、差別解消に関わる啓発活動

① 出前講座：虐待防止 16回 参加者数 291人

差別解消 9回 参加者数 198名

② 長野市障害者虐待防止・権利擁護研修

③ 長野市差別解消連携協議会・長野市虐待防止連携協議会への参加(1月)

第1回	講演「よりよい支援のために」 ～障害者虐待防止法の理解～	野沢和弘氏	参加者 74 事業所 135名
第2回	講演「障害のある人の権利擁護」	関哉直人氏	参加者 96 事業所 145名
第3回	講演「障害者虐待防止委員会の設置と役割」	佐藤彰一氏	参加者 98 事業所 123名

○長野市障害者地域移行コーディネーターセンター

(1)主な活動

相談人数 延べ 320人 実人数 40人

精神科病院、児童養護施設、障害者支援センター、保健センター等の地域移行に関わる相談を訪問、電話等で行った。指定一般事業所等の連携を図り地域移行を進めた。精神科病院では、コロナ感染予防のため、面会、施設入所・日中活動の体験に制限が係り、ご本人の希望に沿った支援が進まない状況があった。

千曲・坂城自立支援協議会こころ支援部会、須高地域自立支援協議会地域生活支援部会、北部地区障害者自立支援協議会、精神障がい者地域生活支援コーディネーター等連絡会へ、訪問、Web 会議に出席。

令和3年度 長野市南部・北部障害者相談支援センター活動報告

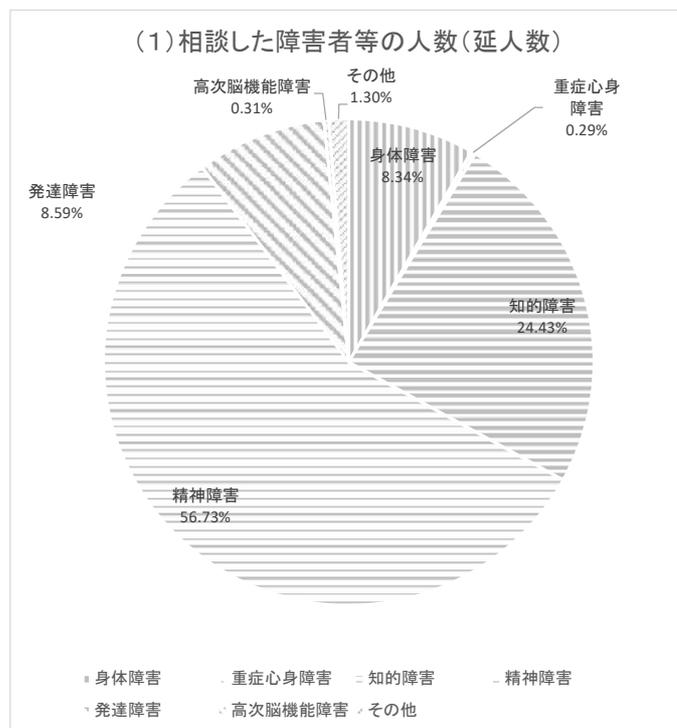
主な活動

- ・個別相談(福祉サービスなどへのつなぎから日々の相談まで)
 - ・人材育成(研修会の企画や運営、相談支援専門員のバックアップ)
 - ・ふくしネットへの参画
 - ・地域課題への取り組み
 - ・関係機関との連携会議(高齢者分野や地区保健センターや就労支援機関、生活困窮機関など)
 - ・4/15 だれでも研修会
 - ・相談支援従事者 初任者研修・現任研修 演習講師・インターバルへの協力
 - ・12/18よつばの会勉強会での相談支援センター説明
- (南部)
- ・長野市障害ふくしネットの運営及び事務局の一部の業務
 - ・5/19第1回地域ネットワーク連絡会参加
 - ・川中島地区 災害についての研修会への開催協力(災害からご利用者の命を守るために専門職に出来ること)
 - ・6/18地域と共に進める災害対策と個別支援
 - ・1/12個別支援計画の作成と地域連携
 - ・実習生へ相談支援センターとふくしネット説明
 - ・担当地区の保健センター・自治協・包括・相談支援事業所への巡回訪問
 - ・11/30 南部障害者相談支援センターと南部ブロック包括支援センターの情報交換会
 - ・1/27中止 手をつなぐ育成会南部ブロック学習会 相談支援センター説明
 - ・2/28 関係機関を交えた事例検討会
- (北部)
- ・もんぜんぶら座という市民が活用する場を活かして、障害者週間のポスター掲示や福祉事業所のアート作品を展示して普及啓発活動を行った。
 - ・6/23と11/10、第3・4・5地域保健福祉連携の会
 - ・2/18 長野市薬剤師会との勉強会

令和3年度 長野市南部・北部障害者相談支援センター活動実績

(1)相談した障害者等の人数(延人数)

項目	月	合計
身体障害	障害者	602
	障害児	26
	計	628
重症心身障害	障害者	19
	障害児	3
	計	22
知的障害	障害者	1,731
	障害児	108
	計	1,839
精神障害	障害者	4,254
	障害児	17
	計	4,271
発達障害	障害者	597
	障害児	50
	計	647
高次脳機能障害	障害者	23
	障害児	0
	計	23
その他	障害者	95
	障害児	3
	計	98
合計	障害者	7,321
	障害児	207
	合計	7,528

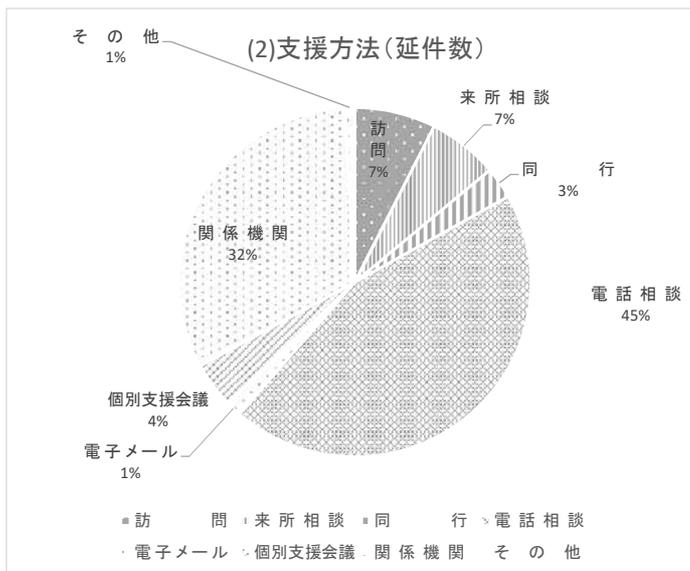


※その他…手帳取得していない方、障害の疑いの方、など

(2) 支援方法(延件数)

項目	月	合計
訪問		774
来所相談		672
同行		302
電話相談		4,630
電子メール		148
個別支援会議		441
関係機関		3,324
その他		98
合計		10,389

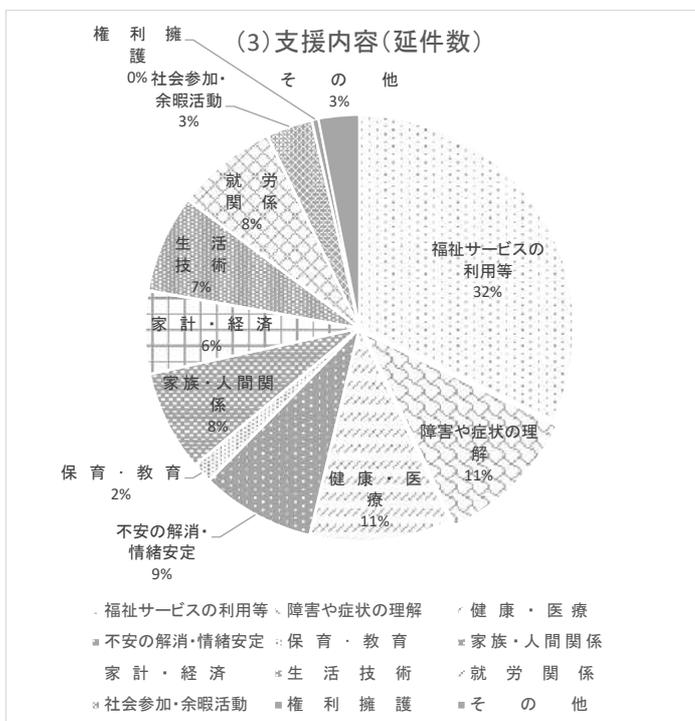
※その他…オンライン面接、手紙のやりとり、など



(3) 支援内容(延件数)

項目	月	合計
福祉サービスの利用等		5,907
障害や症状の理解		2,001
健康・医療		1,956
不安の解消・情緒安定		1,584
保育・教育		281
家族・人間関係		1,406
家計・経済		1,156
生活技術		1,370
就労関係		1,408
社会参加・余暇活動		644
権利擁護		90
その他		560
合計		18,363

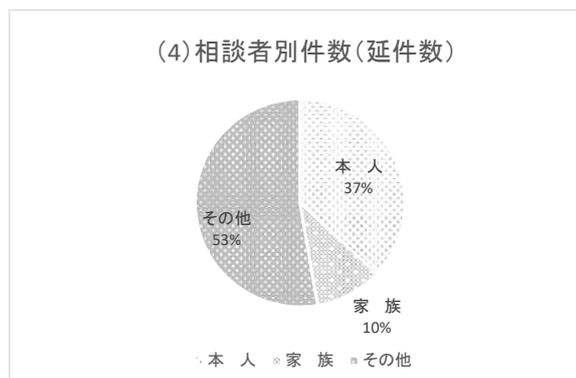
※その他…環境整備など



(4) 相談者別件数(延件数)

項目	月	合計
相談者別	本人	3,597
	家族	1,009
	その他	5,127
合計		9,733

※その他…行政、医療機関、保健センター、相談支援専門員など関係機関



ケアプランナー・指定相談事業所連絡会

執行部：宇野耕太郎(ほっとらいふ相談室)、吉田千恵(ブルースター)、
 八田麻子(相談支援センターはびねす)、本山さゆり(あいくる)
 ケアマネ連絡会担当者：小池昌代、浅井芙美子(北部障害者相談支援センター)、
 田中みどり、(川俣伸枝)(南部障害者相談支援センター)
 長野市障害福祉課担当者：倉島英俊、立原博之

1、年間テーマ

「地域課題につながる困りごと」～プランナーの悩みが大切～

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
4	15	Zoom		だれでも研修	・相談支援専門員の役割 ・ケアプラン作成について
6	7	市役所	28	・新執行部の紹介 ・報酬改定について ・今年度の内容について	・報酬改定に関して【グループワーク】 ・今年度の内容【グループワーク】
8	6	市役所	35	・CW と話そう ・訪問薬剤管理について	・障害福祉課 CW とコミュニケーション【グループワーク】
10	15	ふれあい福祉センター	27	・テーマ別検討会 ① 介護保険 ② 地域課題 ③ プラン作成	テーマ別にグループに分かれて、課題や困っていることなど意見を出し合う。 【グループワーク】
12	17	市役所	27	・民生児童委員の役割について ・プラン作成について	民生児童委員の役割について 講師:大池ひろ子さん
3	11	Zoom	32	・1年を振り返って	・1年を振り返って ・地域ごとの課題、社会資源の確認【グループワーク】

令和3年度 事業報告

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

・今年度の振り返りと来年度に向けてのアンケート実施。

4、課題について

(1)主な検討課題

・アンケート内容、執行部での意見を出し合い、毎回内容を決めた。

(2)検討の目的と結果(現状)

(3)引き続き検討が必要とされる課題

(4)部会の運営体制について

- ・ケアマネ、市ケースワーカー、相談支援専門員が連携し、運営をおこなった。
- ・新型コロナの影響で zoom を利用した「だれでも研修会」を4月におこない、年間予定では隔月の開催をほぼ予定通りに6月、8月、10月、12月、3月に開催した。また参加者は昨年同様各事業所1人に限定し開催した。
- ・各回のテーマは年度末のアンケートと執行部での意見をまとめた上で設定。
- ・執行部は市内北部・南部から2名ずつ新旧の調整をしながら選出。

5、総括(1年間を振り返って)

相談支援専門員の抱える困りごとを共有できる場として1年間取り組みをおこなった。新型コロナの影響により、各事業所1名の参加となったが、個で困っていることを連絡会の中で関係者と共有をおこなった。個での困り感を地域の課題として捉えていくことが出来ないかと考え、毎回テーマを設定し連絡会を開催した。

また業務内容に関する困り感などもアンケートの中で確認でき、長野市からの情報共有、プラン作成時に関する説明、新規事業所の情報提供もおこなった。さらに今年度もケースワーカーと直接話ができる場を設け、親交を深めることができた。特に少人数事業所では、他に相談できる相手がない孤独や不安等を感じている意見も聞かれるため、連絡会で他の相談員と繋がりをつくれる場としても開催することができた。

来年度も関係者でコミュニケーションを取れる場として様々なテーマを検討しながら開催していきたい。

運営委員会（部会長連絡会合同会議含む）

構成メンバー 大池ひろ子(絆の会)、綿貫好子(廣望会)、荒井裕子(信濃の星)、
木下香織(長野県社会福祉事業団)、勝山淳一(長野市社会事業協会)、
降旗千理(長野南福祉会)、岸田隆(森と木)、穂苅修利(長野市障害福祉課)
 長野市障害福祉課担当者 菊池康弘、倉島英俊、吉澤良美、中村賢治

1、年間テーマ

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
4	28	ハーモニー 桃の郷	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしネットの進め方 ・当事者部会のあり方 ・新規に設置するWG 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の業務整理・ケアマネ連絡会の役割確認・部会執行部体制の調整・ふくしネットの年間計画・予算 ・当事者部会のあり方検討会の実施方法 ・WGメンバーの選定(基幹相談支援センターのあり方、地活Ⅲ型の支援の在り方)
6	29	長野市役所	【部会長合同】 26	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会の様子を共有 ・ふくしネットの運営 ・部会長連絡会について ・差別解消連携協議会、虐待防止連携協議会の協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会の今年度の取組予定 ・運営体制・予算・事業計画・課題検討方法共有 ・部会長連絡会・運営委員会の今後の役割 ・各連携協議会への協力方法
8	4	長野市役所	12	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降の相談体制 ・次年度以降の運営委員会 ・地域課題への取り組み方 ・ふくしネットフェスタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターのあり方WG中止 ・R4年度運営委員会の改選に向けた検討 ・運営委員・ケアマネ連絡会の立ち位置など ・ふくしネットフェスタの骨子案検討
9	30	大豆島 公民館	【部会長合同】 21	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回全体協議会 ・ふくしネットフェスタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体協議会テーマ設定 ・ふくしネットフェスタ担当分担・打合せ
10	19	ふれあい 福祉センター	12	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度地域活動支援センター ・県精神保健福祉協議会より依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の設置・運営について(市より) ・精神保健功労者表彰候補者選出
10	19	ふれあい 福祉センター	【部会長合同】 22	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回全体協議会 ・ふくしネットフェスタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体協議会の日程・内容確認 ・ふくしネットフェスタ準備状況確認・打合せ
11	15	ふれあい 福祉センター	【部会長合同】 22	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしネットフェスタ ・第1回全体協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしネットフェスタ振り返り ・全体協議会の内容確認

令和3年度 事業報告

11	15	ふれあい 福祉センター	14	・次年度以降の運営委員会	・運営委員会の機能や選出メンバーについて
12	27	長野市役所	14	・R4年度地域活動支援センター ・次年度以降の運営委員会 ・第2回全体協議会 ・長野県自立支援協議会	・次年度新規設置法人の報告(市より) ・運営委員会の構成員・選出スケジュール案 ・第1回全体協議会の課題の整理・検討の場 ・県自立支援協議会への地域課題提出
1	27	Zoom	【部会長合同】 22	・次年度以降の運営委員会 ・第1回全体協議会 ・第2回全体協議会 ・次年度に向けて	・運営委員の選出 ・第1回全体協議会の課題の整理・検討の場 ・第2回全体協議会の日程・内容確認 ・部会年間まとめ/部会執行部選出/次年度引継ぎ
2	22	Zoom	14	・第2回全体協議会 ・令和4年度当初スケジュール	・第2回全体協議会内容確認 運営委員会の体制/今年度振返り/タイムスケジュール/地域課題の整理 ・新たな運営委員会の体制になるまでの流れ

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

- ・当事者部会在り方検討会の実施
- ・全体協議会、障害者週間関連企画(ふくしネットフェスタ)の実施

4、課題について

(1)主な検討課題

- ①当事者部会のあり方について
- ②運営委員会の役割について
- ③運営委員会の改選に向けて
- ④地域課題の抽出について

(2)検討の目的と結果(現状)

①について

ふくしネットの中で、幅広い当事者の意見を吸い上げ、反映していくためには、当事者部会がどうあったらいいか、前年度から検討されていた。5/27に市内の当事者・家族団体のいくつかに声を掛け、当事者部会の役割や位置づけについて考える機会を持った。そこで出た意見を踏まえながら執行部

令和3年度 事業報告

の中で今年度の取組を進めてもらうことになった。

②について

来年度、運営委員会で担っていた役割の一部(執行部調整・年間計画作成・全体協議会運営・障害者週間企画)を部会長連絡会に移していくことを部会長連絡会へ提案。運営委員会や部会長連絡会の在り方は、部会長らと一緒に考える形。

どんな形で運営しているか部会長に実感してもらえるよう、全体協議会やふくしネットフェスタを部会長と協力しながら実施した。

運営委員会・部会長連絡会・ケアマネ連絡会の機能分担は、まだ詰め切れていない。

③について

運営委員会の2年の任期が終了となり、来年度新体制となる。

ふくしネットについて改めて考え、

〔 相談体制の機能の一部として、資源開発等の機能を引き出せるメンバー構成
次世代の育成
当事者等、幅広い意見をふくしネットへ反映するにはどんな形がいいか
を検討した。〕

④について

ふくしネットは地域課題の解決が目的だが、地域課題を集める段階が、うまく機能してない。今年度は試行的に、第1回全体協議会で課題を伝えられる場を設定した。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

・相談支援体制の役割の検証

重層的支援体制整備が長野市で検討されている。どんな形になるか分からないため、基幹相談支援センターの設置検討は現状では難しい。そのためワーキンググループは設置出来なかった。しかし現在の相談体制で整っているわけではないので、各センターの体制や機能など、出来る範囲での検証は必要。

・第1回全体協議会で挙げられた課題について

令和3年度 事業報告

(4)部会の運営体制について

5、総括(1年間を振り返って)

今年度においては、運営委員会を含む「ふくしネット」の運営についての今後の在り方を検討しました。まずは当事者部会にけんり部会を包含し、当事者部会の在り方検討会を開催し、新たに幅広い当事者及び当事者団体の声を「ふくしネット」に反映させる仕組みを創ろうと動き出しました。また、ふくしネットの今後の運営について次世代の育成も考慮しつつ運営委員会が担っていた役割の一部を部会長連絡会に移行していくことを部会長連絡会に提案し、運営委員会と部会長連絡会との合同会議を頻回に持ち協力体制を執ってきましたが、それぞれの機能分担の課題はまだまだ検討が必要であります。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の中、昨年度実施出来ませんでしたふくしネットフェスタ・障害者週間イベントは規模を縮小し各部会の主体的な協力の元に、今までとはまた違った充実した市民の皆様へのふくしネットに対する啓蒙啓発の場になったのではないかと思います。

また、数年来の懸案事項であります地域課題の抽出から課題解決への検討の仕組みづくりにつきましては、第1回全体協議会にて部会を中心に課題提起をして頂き、運営委員会にて課題の整理を行いました。今後は課題解決に向けた仕組み作りも含め、丁寧な検討をどう進めていくか議論が必要です。

新年度では運営委員改選期に当たり、今まで長野市委託相談法人管理者等・ケアマネ連絡会で委員構成をしていましたが、障がい当事者・当事者団体から構成メンバーとして参加して頂き、当事者目線での意見を運営に反映してまいります。そして、「地域共生社会」「重層的支援体制整備事業」といった「障害者福祉」の枠を超えた横断的な施策を見据えた私達の「ふくしネット」の強い運営を目指して参ります。

令和3年度 長野市障害ふくしネット実施内容

4月			5月			6月		
1	木		1	土		1	火	
2	金		2	日		2	水	ケアマネ連絡会10:00~桃の郷
3	土		3	月		3	木	
4	日		4	火		4	金	
5	月		5	水		5	土	
6	火		6	木		6	日	
7	水	ケアマネ連絡会10:00~桃の郷	7	金		7	月	相談支援事業所連絡会13:30~市役所
8	木		8	土		8	火	
9	金		9	日		9	水	
10	土		10	月		10	木	
11	日		11	火		11	金	
12	月		12	水	ケアマネ連絡会10:00~Web	12	土	
13	火		13	木		13	日	
14	水		14	金		14	月	
15	木	地域でいこう委員会10:00~市保健所	15	土		15	火	
16	金		16	日		16	水	
17	土		17	月		17	木	
18	日		18	火		18	金	
19	月		19	水		19	土	
20	火		20	木		20	日	
21	水		21	金	地域でいこう委員会13:30~市保健所	21	月	
22	木		22	土		22	火	しごと部会15:00~ふれあい福祉センター
23	金		23	日		23	水	
24	土		24	月		24	木	
25	日		25	火		25	金	
26	月		26	水		26	土	
27	火		27	木	当事者部会在り方検討会10:30~市役所	27	日	
28	水	運営委員会10:00~桃の郷	28	金		28	月	地域でいこう委員会10:00~市保健所
29	木		29	土		29	火	運営委員会・部長連絡会合同会議13:30~市役所 やさしいお店プロジェクト15:30~市役所
30	金		30	日		30	水	
			31	月				
備考			備考			備考		

令和3年度 長野市障害ふくしネット実施内容

7月		8月		9月	
1	木	1	日	1	水 ケアマネ連絡会10:00~Web
2	金	2	月	2	木
3	土	3	火	3	金
4	日	4	水	4	土 ケアマネ連絡会10:00~桃の郷・Web 運営委員会・部長連絡会合同会議13:30~市役所 運営委員会15:00~市役所
5	月	5	木	5	日
6	火	6	金	6	月 相談支援事業所連絡会13:30~市役所
7	水	7	土	7	火 ケアマネ連絡会10:00~桃の郷・Web
8	木	8	日	8	水
9	金	9	月	9	木 こども部会10:00~にじいろキッズらいふ
10	土	10	火	10	金
11	日	11	水	11	土
12	月	12	木	12	日
13	火	13	金	13	月
14	水	14	土	14	火
15	木	15	日	15	水
16	金	16	月	16	木
17	土	17	火	17	金
18	日	18	水	18	土
19	月	19	木	19	日
20	火	20	金	20	月 医療的ケア支援委員会10:00~にじいろキッズらいふ
21	水	21	土	21	火 地域でいこう委員会10:00~Web
22	木	22	日	22	水 障害者雇用フォーラム(企業懇談会)14:00~Web
23	金	23	月	23	木
24	土	24	火	24	金
25	日	25	水	25	土 地域でいこう委員会13:30~Zoom
26	月	26	木	26	日
27	火	27	金	27	月 地域でいこう委員会13:30~市保健所
28	水	28	土	28	火 こども部会10:00~Web くらし部会10:00~桃の郷
29	木	29	日	29	水
30	金	30	月	30	木 運営委員会・部長連絡会合同会議14:00~大豆島公民館
31	土	31	火		
備考	・新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、7/9こども部会中止。	備考	・新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、8/24くらし部会中止。8/25地域でいこう委員会はWebでの開催に切替。	備考	・9/14医療的ケア支援委員会中止

令和3年度 長野市障害ふくしネット実施内容

10月			11月			12月		
1	金		1	月		1	水	ケアマネ連絡会10:00～桃の郷・Web
2	土		2	火		2	木	
3	日		3	水		3	金	
4	月		4	木	ケアマネ連絡会10:00～桃の郷・Web	4	土	
5	火		5	金	こども部会16:00～Web	5	日	
6	水	ケアマネ連絡会10:00～桃の郷・Web	6	土		6	月	
7	木		7	日		7	火	
8	金		8	月		8	水	
9	土		9	火		9	木	
10	日		10	水		10	金	
11	月		11	木		11	土	
12	火		12	金		12	日	
13	水		13	土		13	月	医療的ケア支援委員会10:00～にじいろキッズらいふ
14	木		14	日		14	火	
15	金	相談支援事業所連絡会13:30～ふれあい福祉センター	15	月	運営委員会・部会長連絡会合同会議14:00～ふれあい福祉センター 終了後、運営委員会	15	水	
16	土		16	火		16	木	
17	日		17	水		17	金	相談支援事業所連絡会13:30～市役所
18	月		18	木		18	土	
19	火	運営委員会9:45～ふれあい福祉センター 運営委員会・部会長連絡会合同会議10:0～ふれあい福祉センター	19	金	地域でいこう委員会13:30～市保健所	19	日	
20	水		20	土		20	月	
21	木	かつどう部会16:45～市役所	21	日		21	火	
22	金	地域でいこう委員会13:30～市保健所	22	月		22	水	
23	土		23	火		23	木	地域でいこう委員会10:00～市保健所
24	日		24	水		24	金	
25	月		25	木	第1回全体協議会14:00～Web・桃の郷	25	土	
26	火		26	金		26	日	
27	水	ふくしネットフェスタ11:00～市芸術館	27	土		27	月	運営委員会13:30～ふれあい福祉センター
28	木	医療的ケア支援委員会15:00～にじいろキッズらいふ	28	日		28	火	
29	金		29	月		29	水	
30	土		30	火	くらし部会10:30～桃の郷	30	木	
31	日					31	金	
備考			備考			備考		

令和3年度 長野市障害ふくしネット実施内容

1月			2月			3月		
1	土		1	火		1	火	
2	日		2	水	ケアマネ連絡会9:30~Web	2	水	ケアマネ連絡会9:30~Web
3	月		3	木		3	木	
4	火		4	金		4	金	
5	水	ケアマネ連絡会10:00~桃の郷・Web	5	土		5	土	
6	木		6	日		6	日	
7	金		7	月		7	月	
8	土		8	火		8	火	
9	日		9	水		9	水	
10	月		10	木	かつどう部会16:00~Web	10	木	医療的ケア支援委員会研修会16:30~Web
11	火	医療的ケア支援委員会10:00~Zoom くらし部会13:30~桃の郷	11	金		11	金	医療的ケア支援委員会研修会13:00~Web
12	水		12	土		12	土	
13	木	こども部会15:30~Web	13	日		13	日	
14	金		14	月		14	月	
15	土		15	火	当事者部会13:30~Web	15	火	
16	日		16	水		16	水	
17	月		17	木	地域でいこう委員会13:30~Web	17	木	地域でいこう委員会13:30~Web
18	火		18	金		18	金	
19	水		19	土		19	土	
20	木		20	日		20	日	
21	金		21	月	医療的ケア支援委員会10:00~Web	21	月	
22	土		22	火	くらし部会10:30~Web やさしいお店プロジェクト14:00~Web	22	火	
23	日		23	水	運営委員会16:00~Web	23	水	
24	月		24	木		24	木	タウンミーティング13:30~トイゴ・Web
25	火	当事者部会13:30~Zoom	25	金		25	金	第2回全体協議会14:00~Web・桃の郷 終了後、運営委員会Web
26	水		26	土		26	土	
27	木	運営委員会・部会長連絡会合同会議10:00~Zoom	27	日		27	日	
28	金		28	月		28	月	
29	土					29	火	
30	日					30	水	
31	月					31	木	
備考	・新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、1/18くらし部会中止。1/25当事者部会、1/27運営委員会・部会長連絡会合同会議がWebでの開催に切替え。		備考	・新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、基本的にはWeb開催とする。		備考		